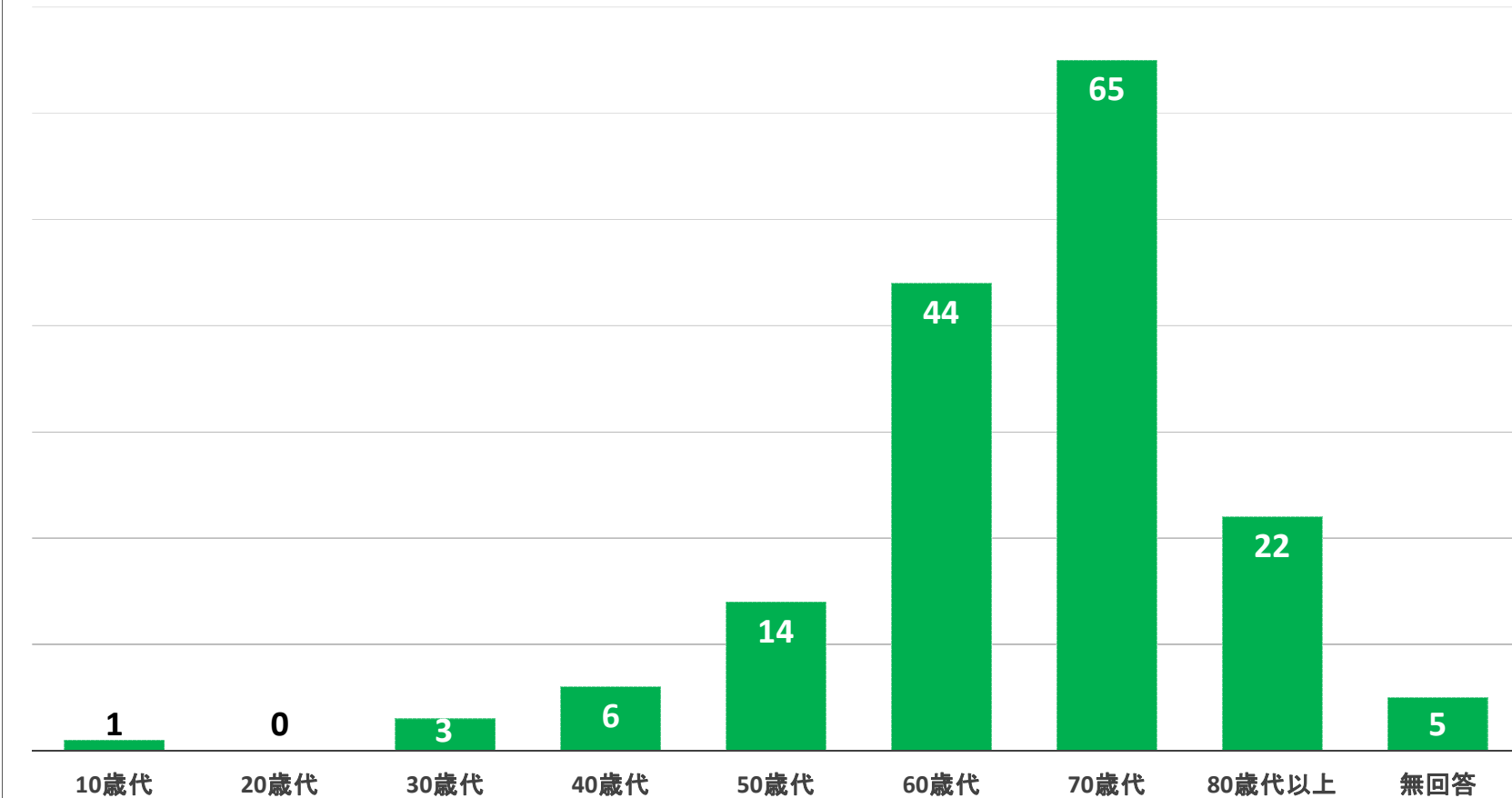
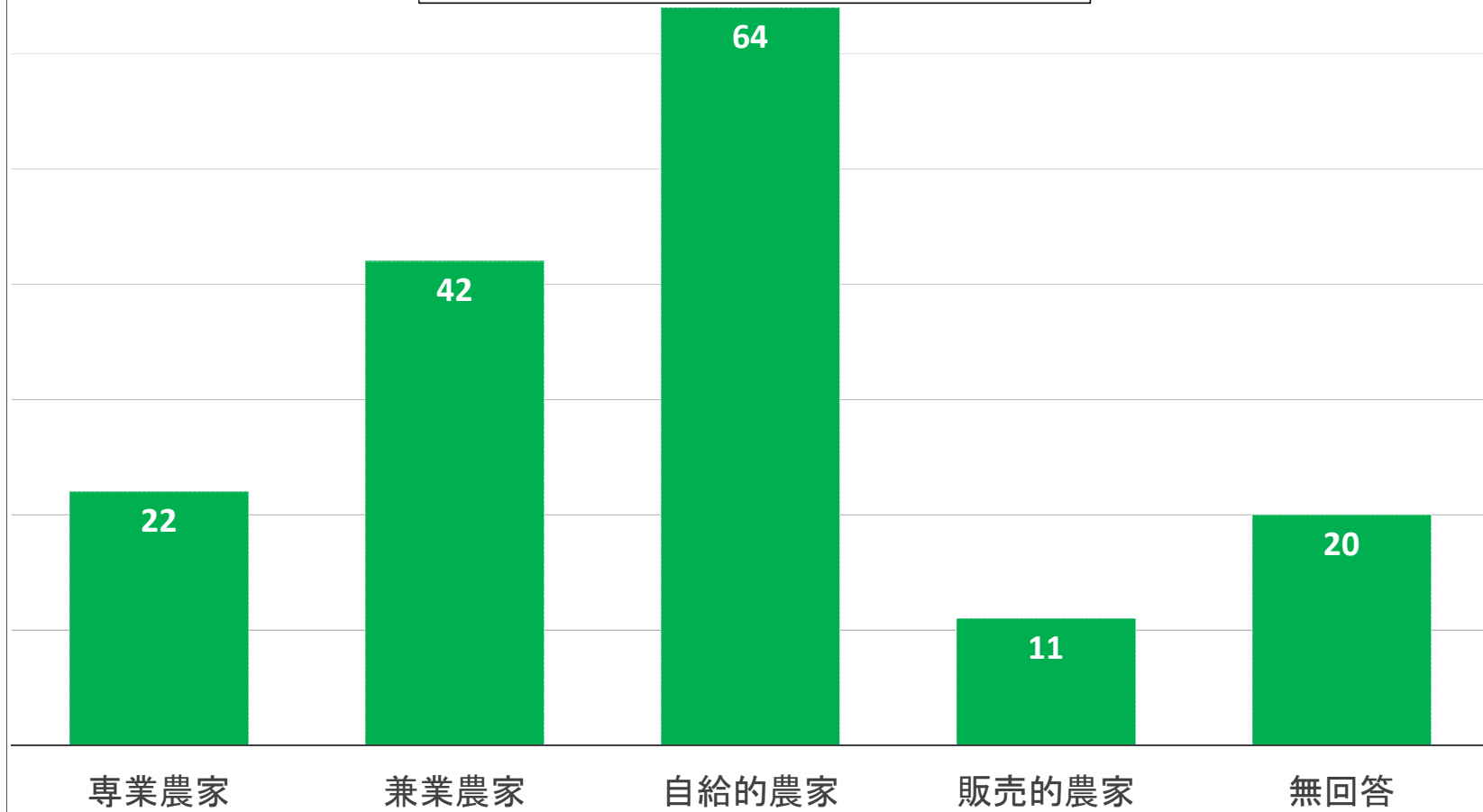


問1 あなたの年齢を教えてください。



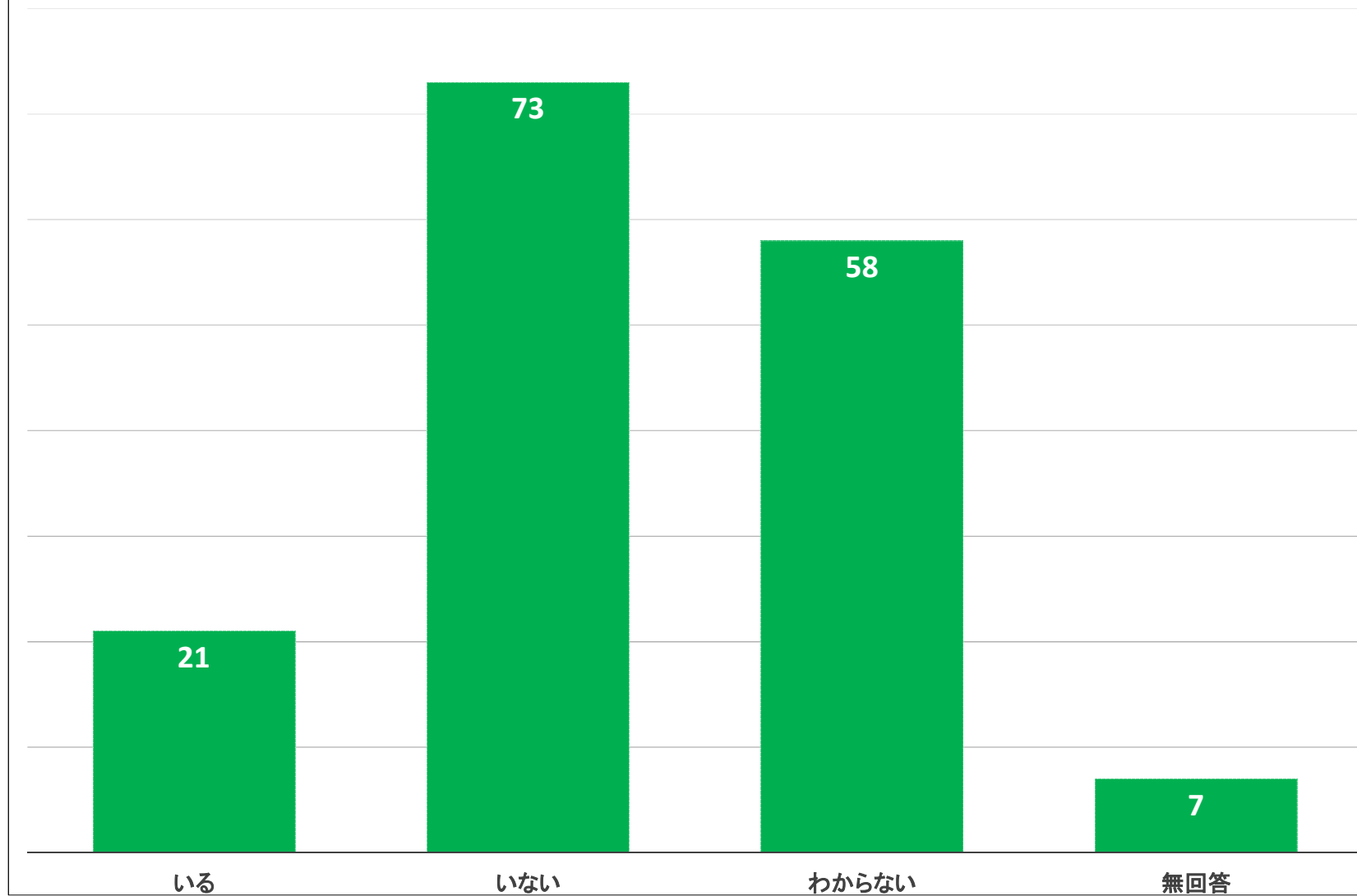
農家の年齢について、159名のアンケート回収に対し無回答の5名を除く154名の回答があった。70歳代が最も多く全体の42%を占める。ついで60歳代が44名(29%)、80歳代以上は22名(14%)で60歳代以上の農家が全体の大半を占める結果となった。また、20歳代の農家については、該当がなく、30歳代でも3名と若い世代の農業従事者は極端に少ない結果となった。

問2 農業の従事区分を教えてください。



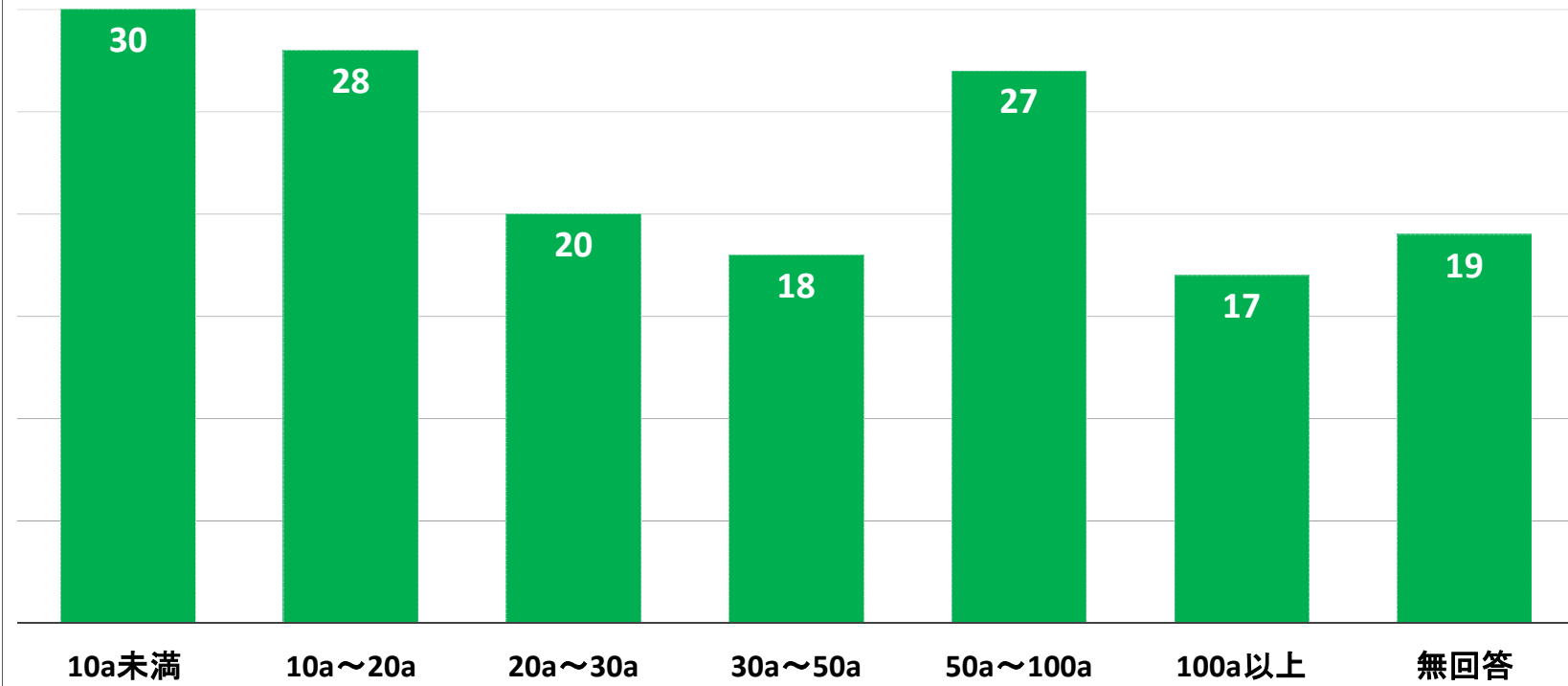
農業の従事区分について、159名のアンケート回収に対し無回答20名を除き139名の回答があった。自給的農家が最も多く64名(64%)、次いで兼業農家が42名(30%)で、専業農家及び販売的農家については、それぞれ22名と11名と農業に特化した従事者は全体的に低い数字となっている。

問3 農業の後継者はいますか？



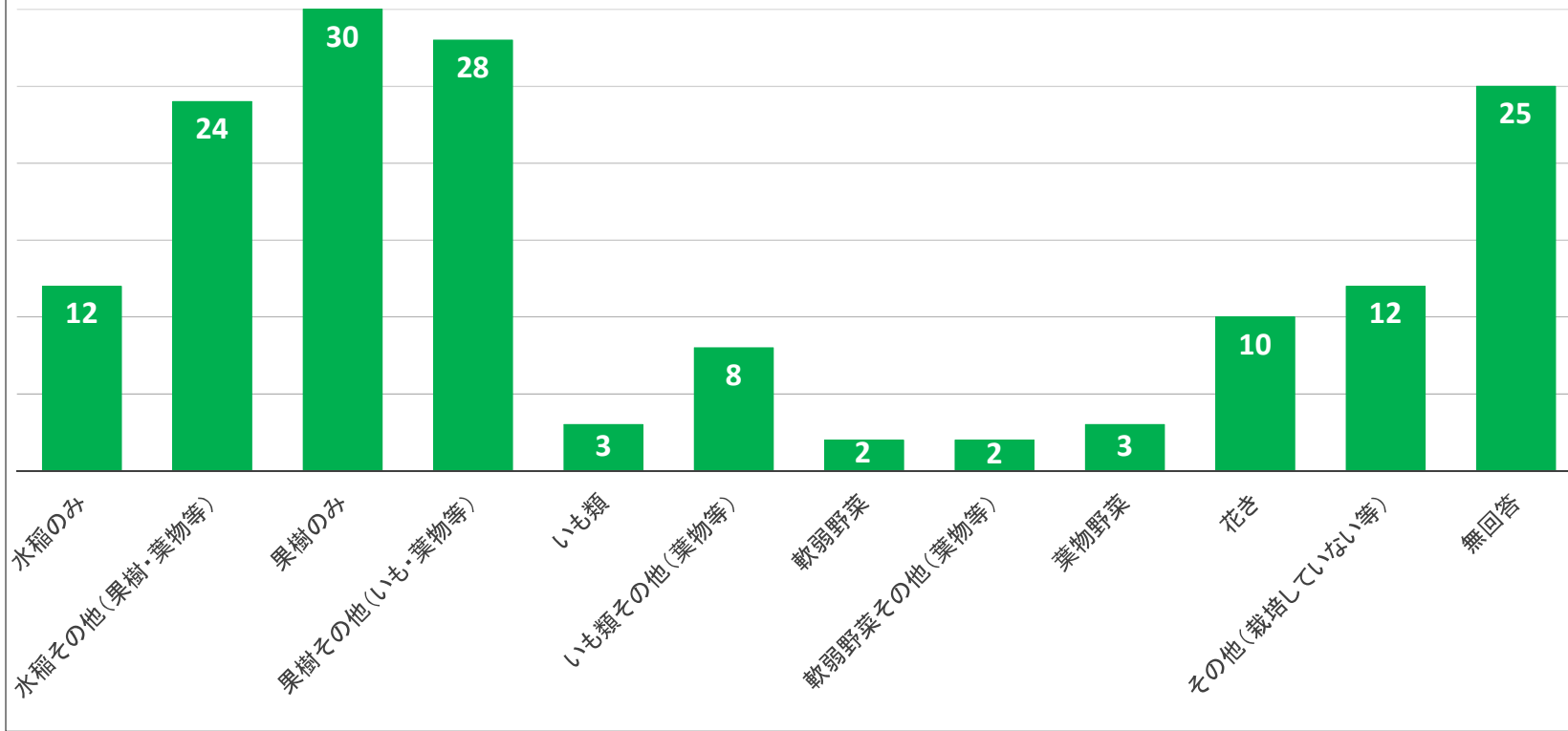
農業の後継者について、159名のアンケート回収に対し152名の回答があった。「いない」の回答は73名(全体の48%)で全体の半数に近い、また「わからない」の回答も多く58名(38%)であった。

問4 あなたの農地の面積を教えてください。



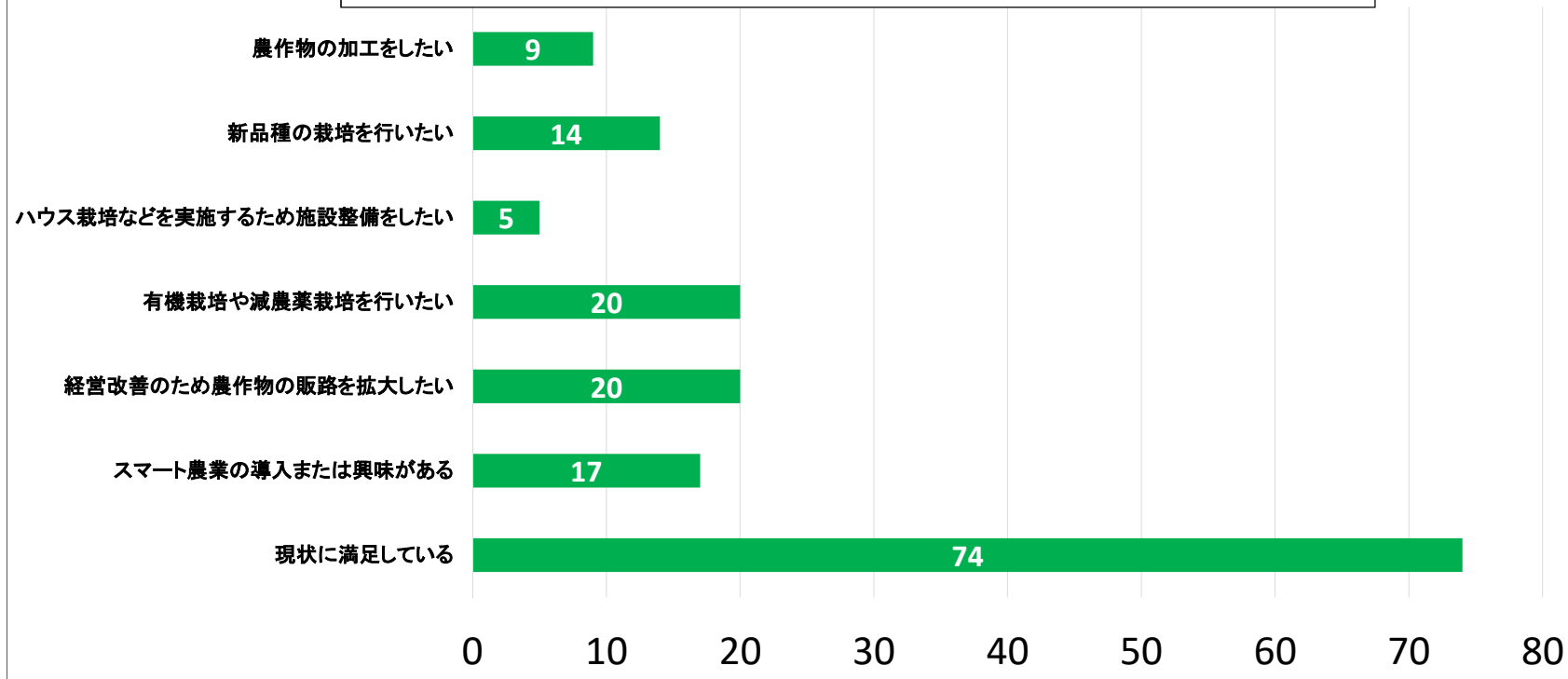
農地の面積について、159名のアンケート回収に対し、140名の回答があり、10a未満が最多の30名、10a～20aが28名、次いで50a～100aが27名であった。

問5 あなたが栽培している農作物を教えてください。



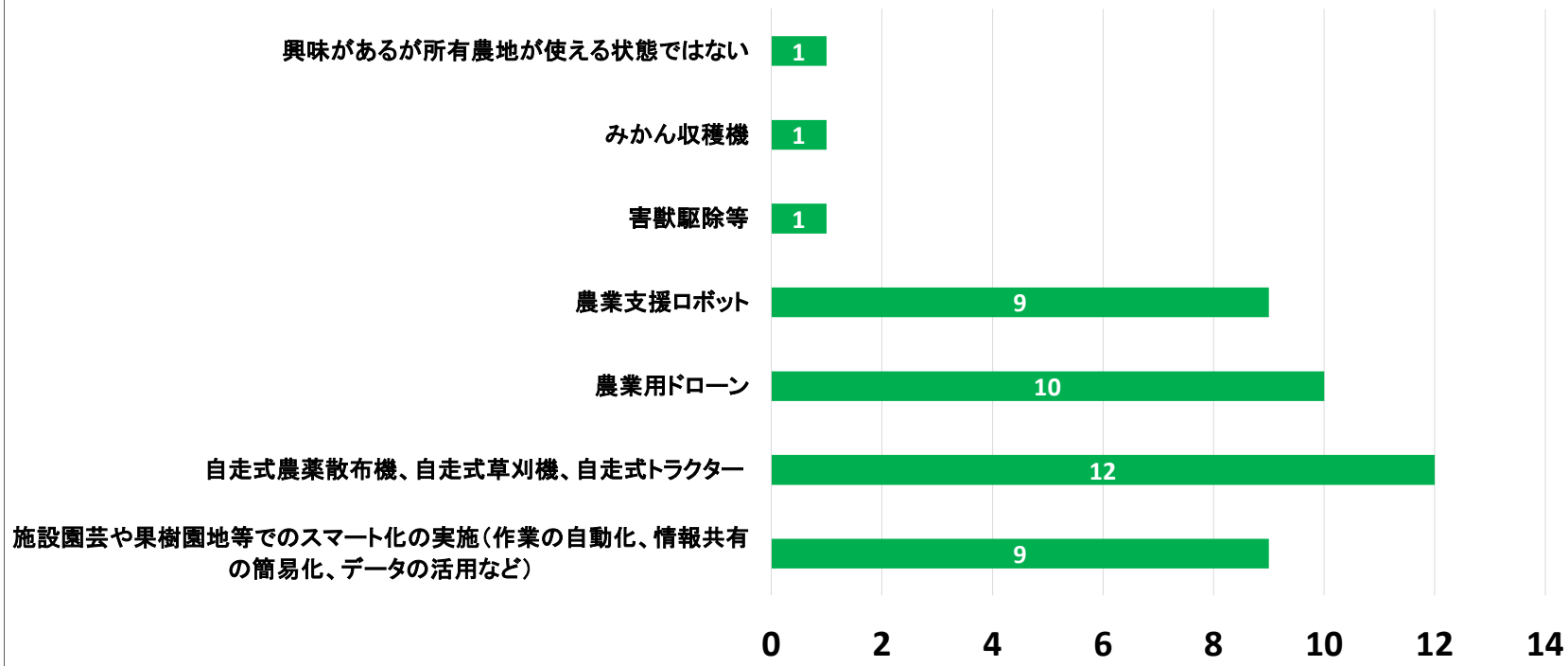
栽培品目について、159名のアンケート回収に対し回答は134名で、果樹のみが最も多く30名(22%)、果樹他(いも・葉物等)が次いで多く28名(20%)で果樹に絡んだ栽培農家が多い結果となった。わが国の主食である水稲に特化した農業者については、12名で全体の9%となっている。

問6 今後の農業経営について、どのようにお考えですか。



今後の農業経営について、アンケートが回収できた159名全員の回答が得られ「現状に満足している」が最多の74名(47%)、「有機栽培や減農薬栽培を行いたい」及び「経営改善のため農作物の販路を拡大したい」がそれぞれ20名、次いで「スマート農業の導入または興味がある」が17名であった。また、「ハウス栽培などを実施するため施設整備をしたい」がわずか5名の結果であった。ビニルハウス等の設置に伴う費用が高額であることが影響しているためか、今後ハウス栽培を検討している農業者の数は最小であった。

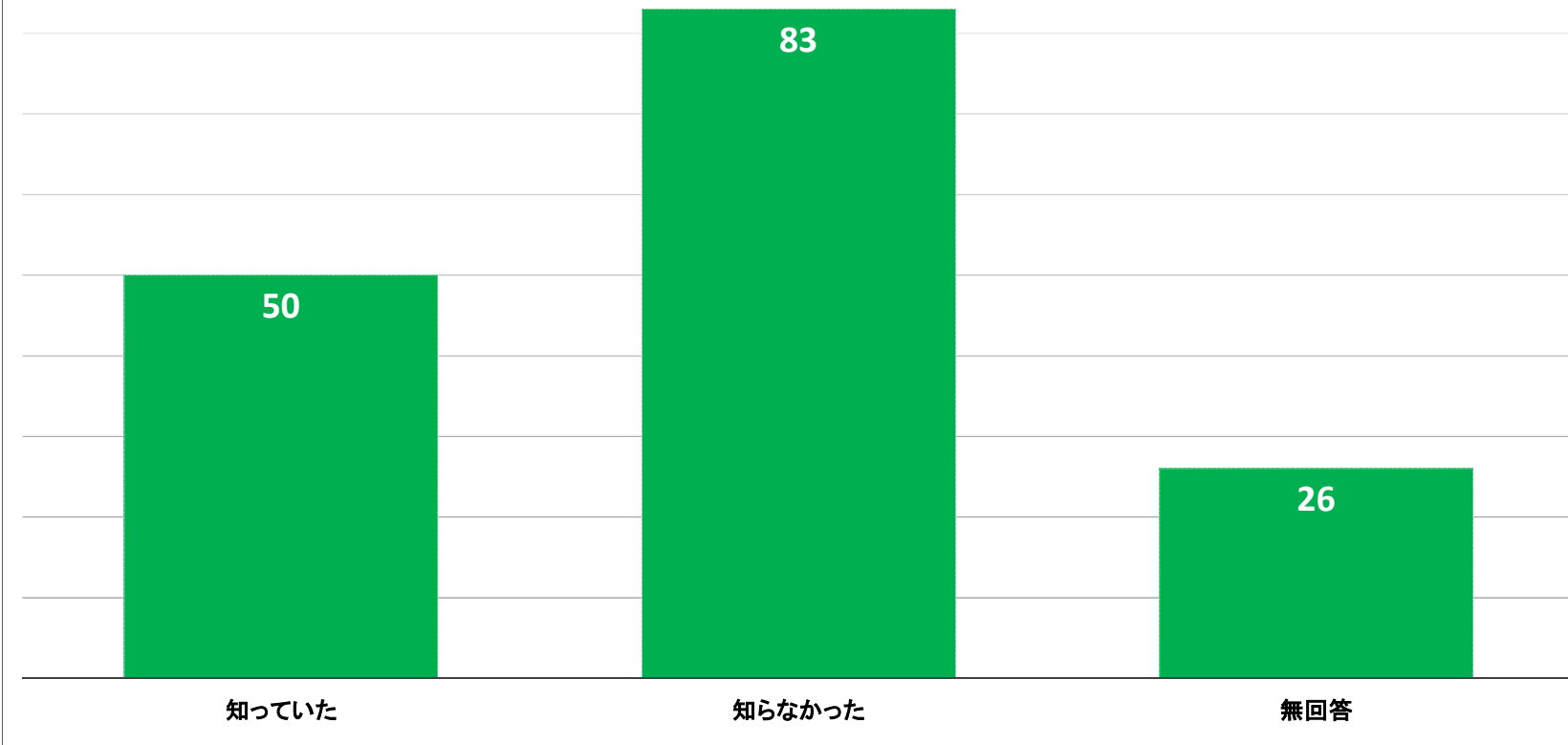
問7 前問でスマート農業に興味があるを選択された方にお尋ねします。どのようなスマート農業に興味がありますか。



前問で「スマート農業に興味があると回答された方は「17名」でしたが、それ以外を選択された方についても回答があったため総数は17名を超えています。

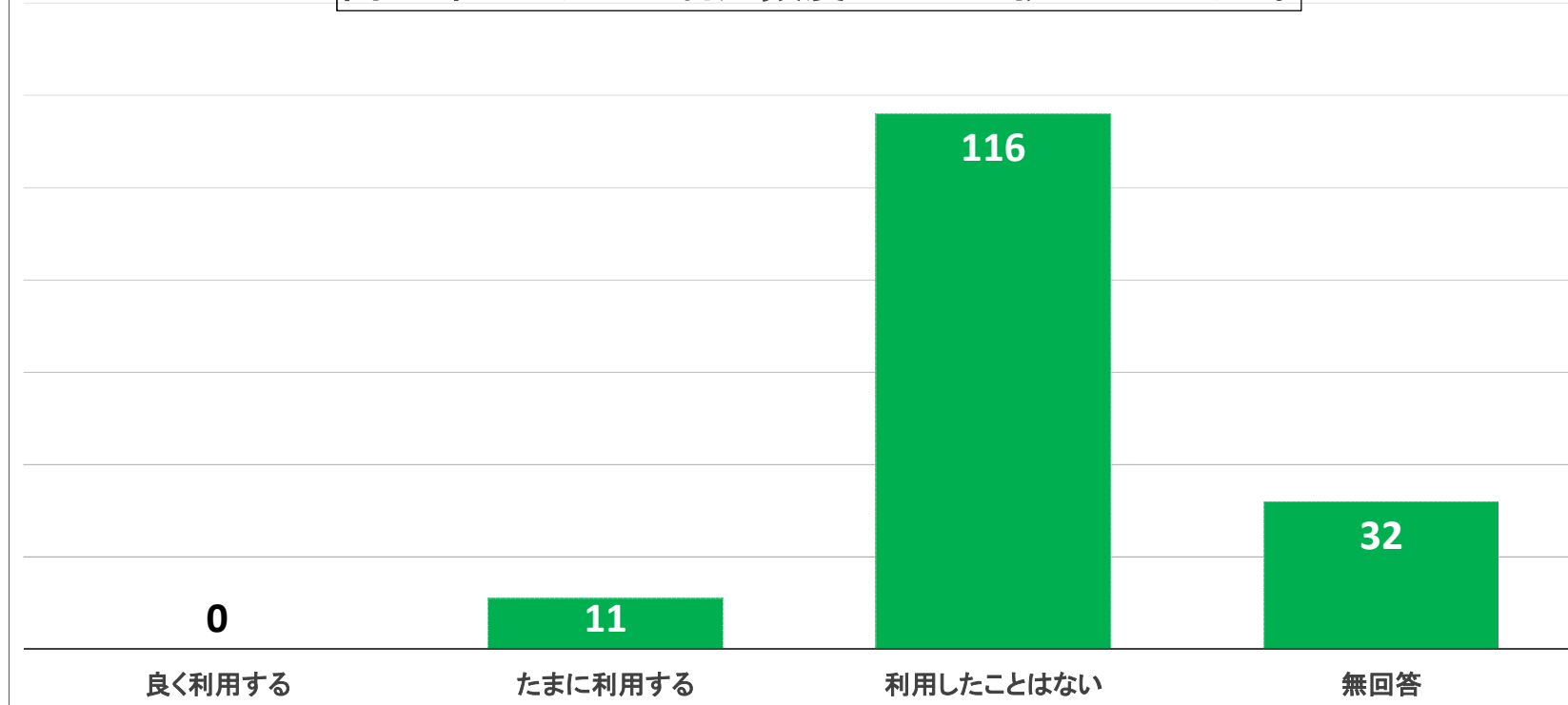
スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術などを活用して、労力がかかる従来の農業から、省力化や効率化、またそれらの技術を用い高品質な農産物の栽培を目的とした新しい農業のスタイルです。この問について最多の回答は「自走式農薬散布機、自走式草刈機、自走式トラクター」に興味がある方が12名、「農業用ドローン」が10名、次いで「農業支援ロボット」及び「園芸施設や果樹園地等でのスマート化の実施」がそれぞれ9名の結果となった。

問8 本センターのことを知っていましたか。



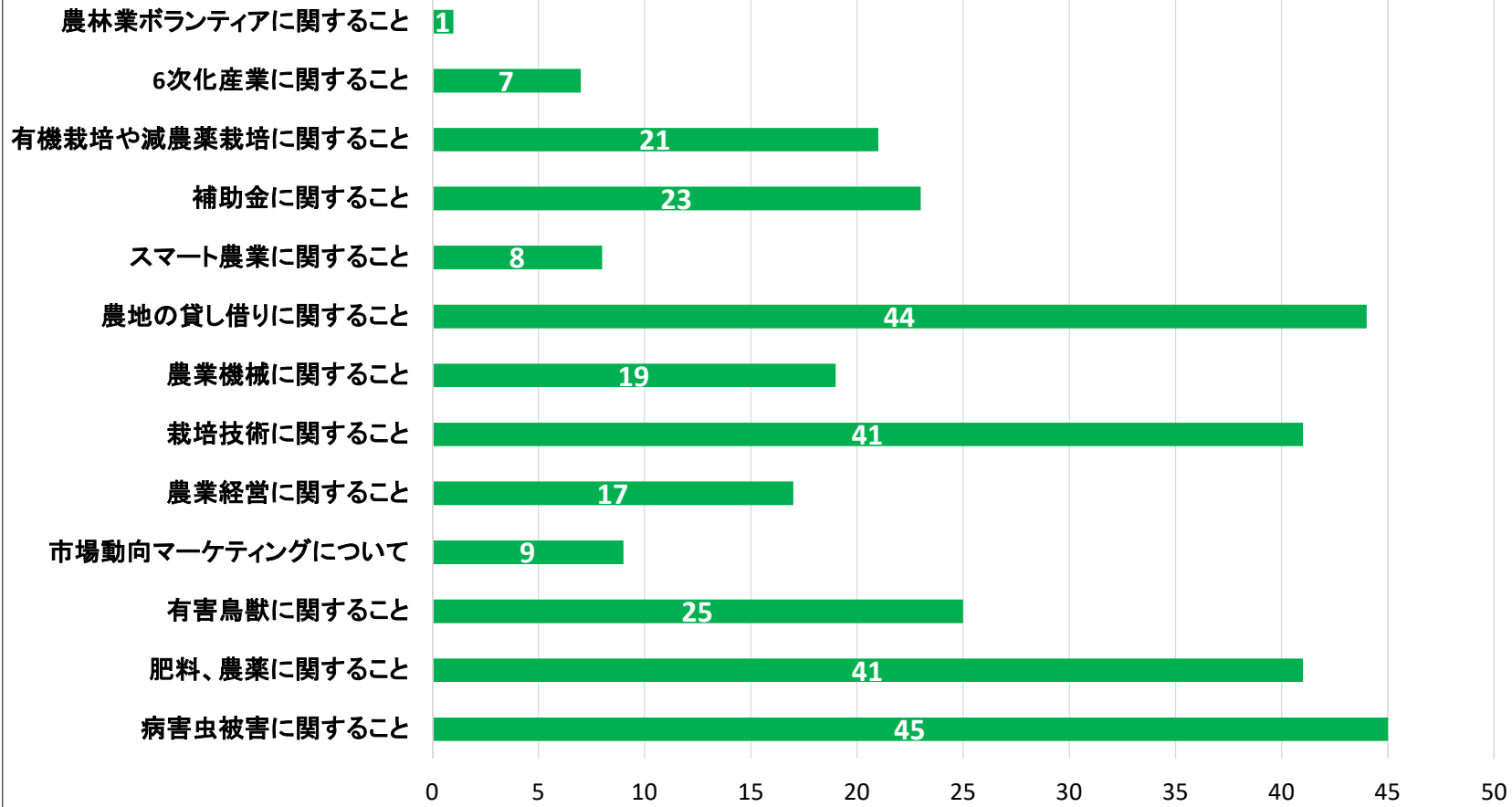
当センターの認知度について、有効回答133名のうち「知らなかった」農業者は83名(全体の62%)で過半数を占める結果となった。

問9 本センターの利用頻度について教えてください。



アンケート回収159名に対し無回答を除く127名のうち「利用したことがない」に回答された方は116名で、過半数を占める結果となった。

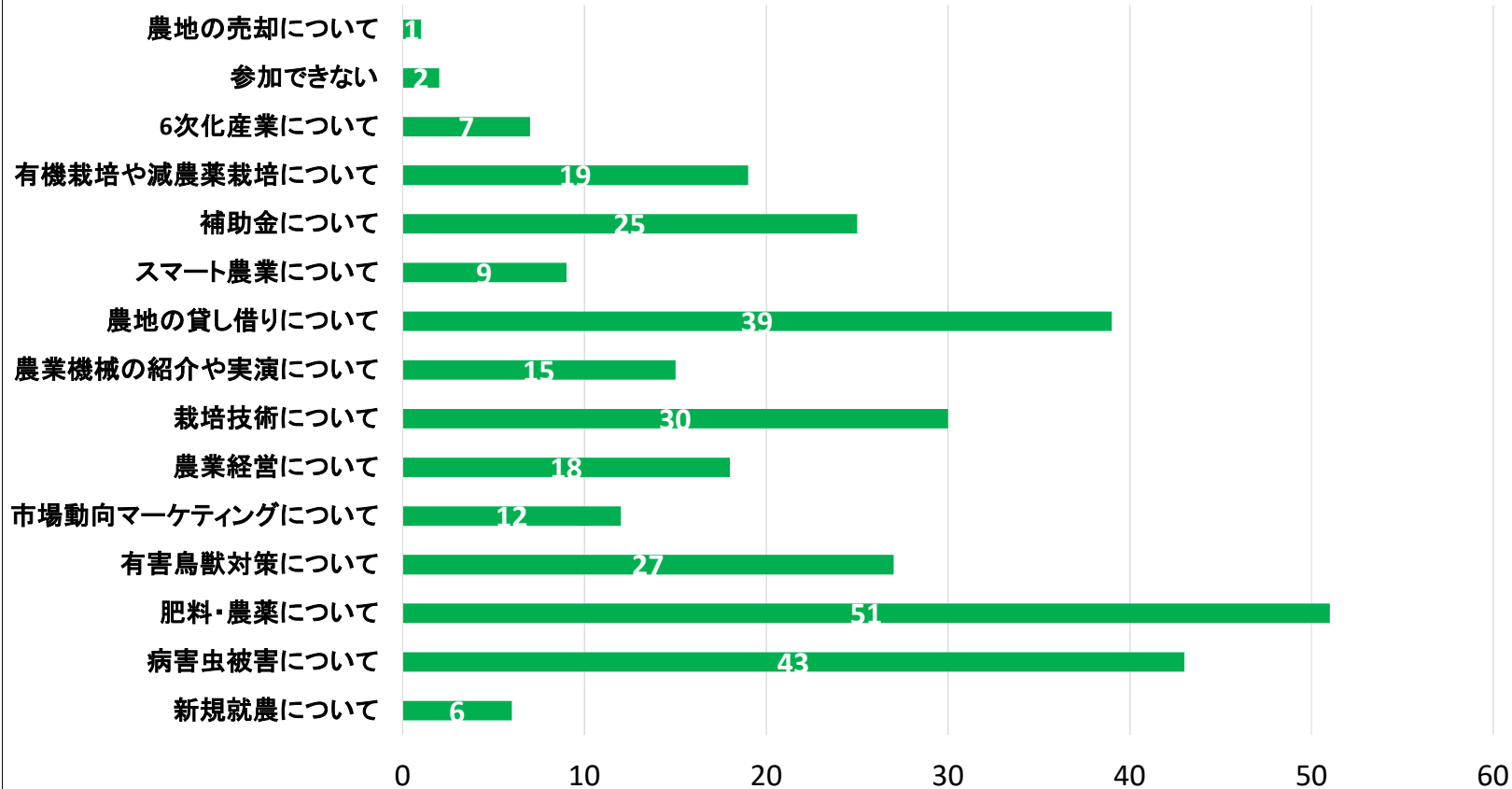
問10 本センターでは営農相談を行っています。相談したい内容があれば教えてください。



複数回答「可」としていたため回答総数は「301」となっています。

全体の回答数301名に対し、「病虫害被害に関すること」が45名、次いで「農地の貸し借りに関すること」が44名、「栽培技術に関すること」および「肥料、農薬に関すること」がそれぞれ41名で他の項目と比べ回答数が多い。回答の少ないものは、「スマート農業に関すること」8名、「市場動向マーケティングに関すること」が9名であった。

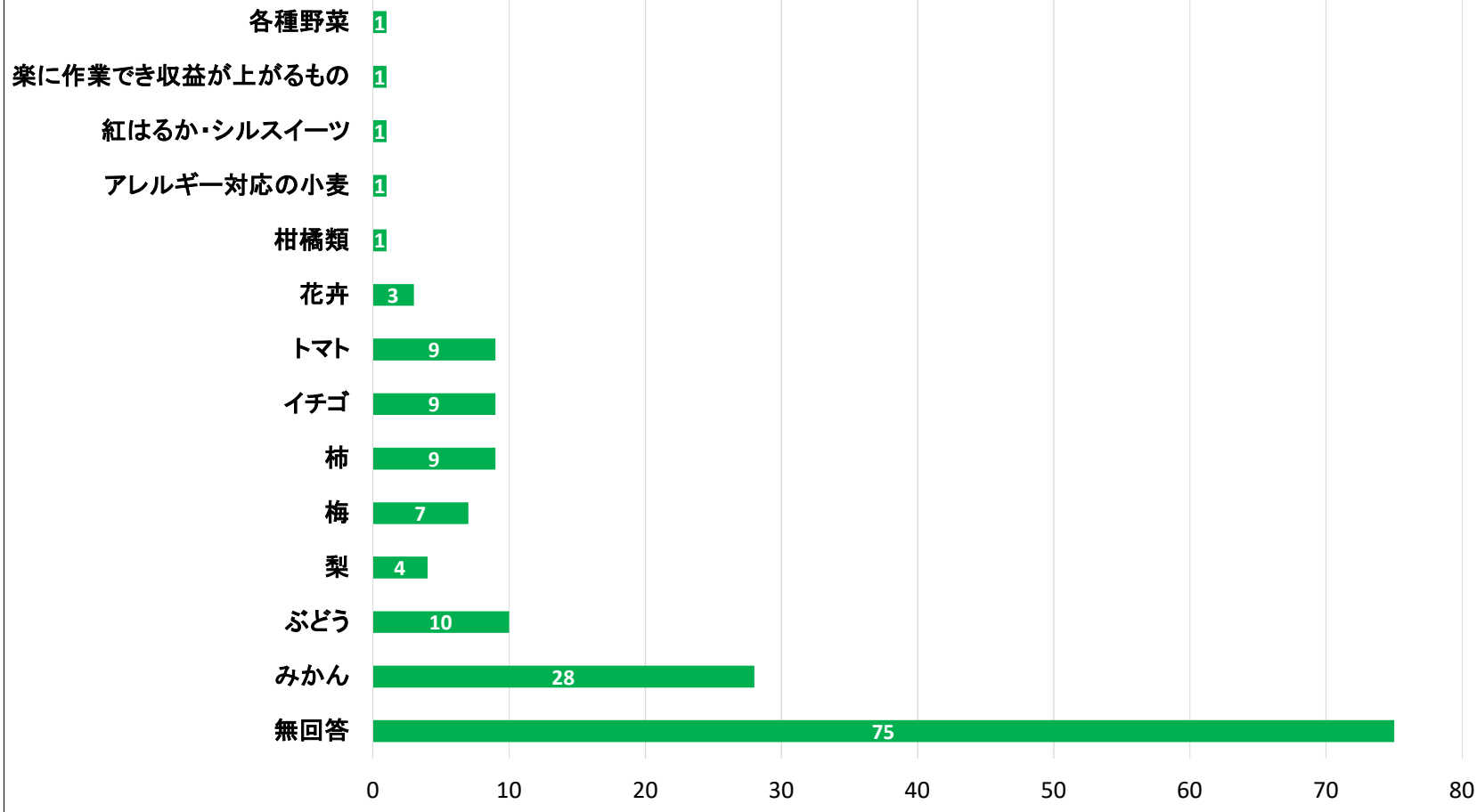
問11 本センターでは各種セミナーを行っています、こういった内容に参加してみたいですか。



複数回答「可」としていたため回答総数は「304」となっています

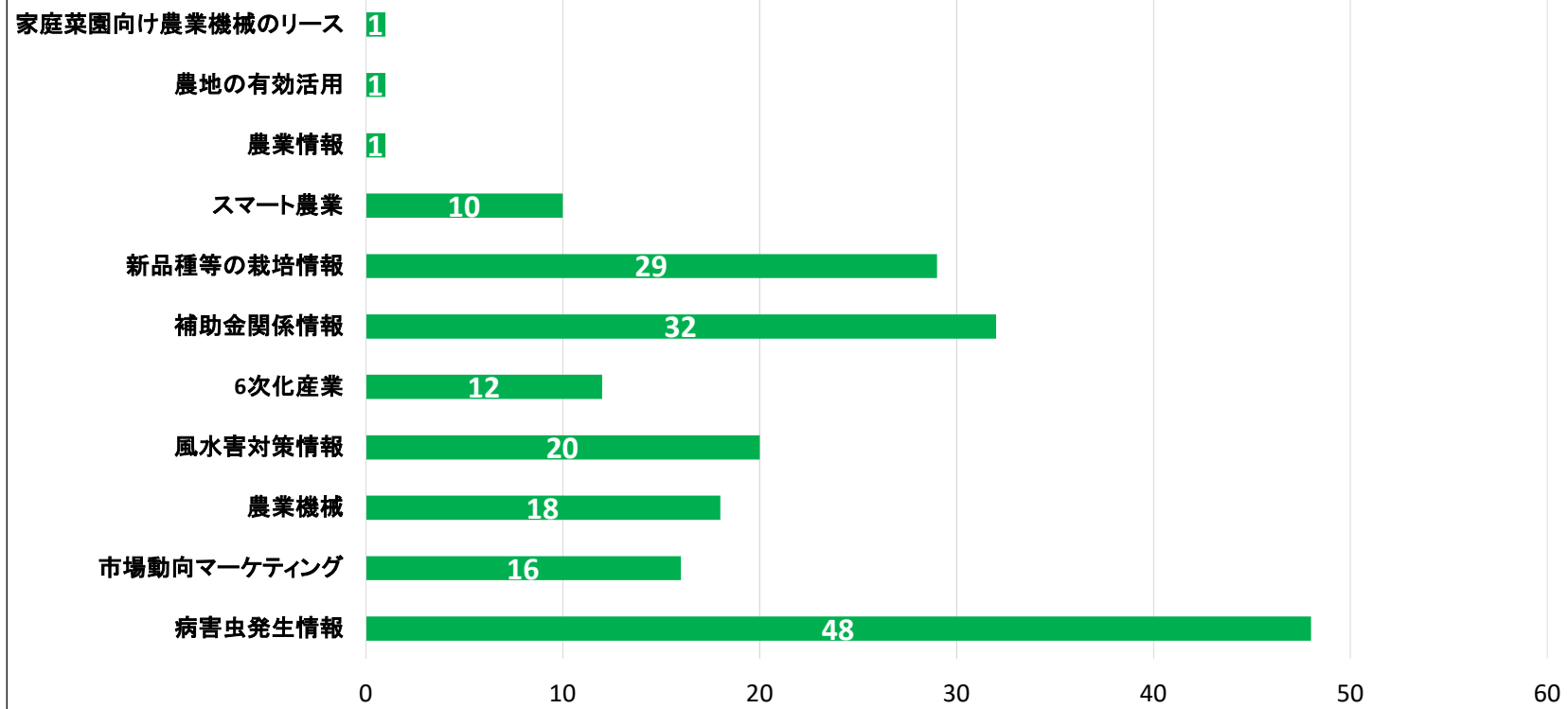
全体で304名の回答に対し、「肥料・農薬について」が51名、「病害虫被害について」が43名、「農地の貸し借りについて」が39名、次いで「栽培技術について」が30名と4項目において回答が多かった。問10の（本センターでは営農相談を行っています、相談したい内容があれば教えてください）の回答の傾向と似た結果となった。

問12 本センターの研究農園では、新品種の実証栽培を行う予定ですが、あなたが新たに導入したいとお考えの品種や栽培方法があれば教えてください。



159名のアンケート回収に対し無回答75名を除く84名の回答があった。結果は、和泉市の南部地域で古くから盛んに栽培されている「みかん」と回答された方は28名(全体の33%)で最多となった。次いで「トマト」「イチゴ」「柿」はそれぞれ9名の回答であった。

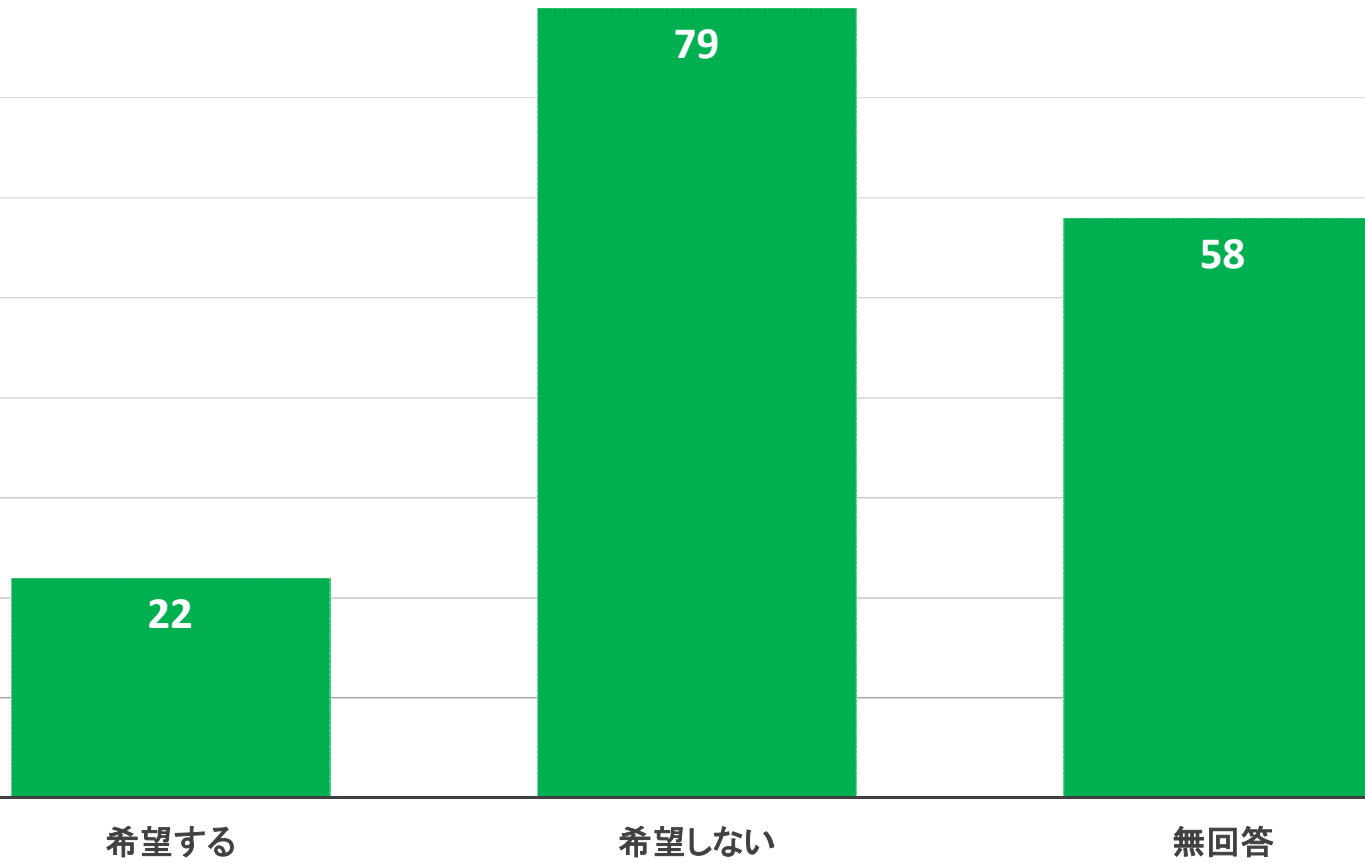
問13 本センターから情報発信する内容で希望するものがあれば教えてください。



複数回答「可」としていたため回答総数は「188」となっています

全体で188名の回答があり最多は「病害虫発生情報」で48名(26%)、「補助金関係情報」が32名(17%)、次に「新品種の栽培情報」が29名(15%)となった。

問14 本センターからの各種情報はHP等で公開していますが、SNSを活用した自動配信があれば希望しますか。



アンケートを踏まえた今後の取組みについて

アンケートの結果からは、和泉市の農業の現状は日本全体の農業以上に、高齢化と後継者不在が顕著であることがわかります。また特色としては、やはり歴史のあるミカンを中心とした果樹栽培農家が多いことが挙げられます。

経営面では現状維持が大半ですが、有機栽培や販路拡大を希望する方や主にロボット技術を活用したスマート農業に興味を示される方が少なからずいらっしゃいます。

また、当センターの認知度や利用度はかなり低い数字となっておりますが、その半面、営農相談やセミナー、研究ほ場での実証栽培に対する期待や要望の声を聞くことができました。

これらを踏まえ、当センターでは令和5年度以降以下の取組みを行っていきたいと考えています。

- 1 農業従事者の育成・農業ファンの養成
 - ①現在行っている新規就農者等養成実践教室の継続実施(継続)
 - ②小学4年生から中学3年生を対象とした農業体験と加工品製作・販売を行う「和泉ジュニアビレッジ」の開校と運営(新規)
- 2 営農相談及び役に立つセミナーの開催(継続)
 - 営農相談の随時受付と、スマート農業やその他農業関連のセミナーの継続開催
- 3 研究ほ場のフル活用
 - ①令和4年度のイチゴの低コスト試験栽培を一部改良し継続実施(継続)
 - ②地球温暖化に適用した果樹の試験栽培(新規)
 - ③有機栽培の試験実施(新規)
 - ④果樹振興会と連携した果樹の試験栽培(新規)
- 4 新しい農業に関する情報の提供(新規)
 - 農文協の最新農業情報をセンターのパソコン画面で閲覧
- 5 農家の役に立つ新たな事業の展開(新規)
 - ①農家が所有する不要な農機器を、それを欲しい農家へ仲介する事業の実施
 - ②直売所販売農家のためのデータ管理ソフトの開発と販売
- 6 アライグマ捕獲檻・ハチ巣駆除防護服の貸出(継続)
- 7 アグリセンターの認知度向上(継続)
 - 道の駅等との連携によるイベント参加やセンターホームページの更なる充実